

## 香教組第90回定期大会 大会決議（案）

世界から孤立する日本。安倍首相による靖国参拝は、同盟国とするアメリカからも「失望した」との声明が出されました。「積極的平和主義」を唱える内容は、集団的自衛権の行使であり、これまでの自民党政権の憲法解釈を変え、さらに憲法を改悪しようとするものです。世界中から日本の右傾化を憂慮する声が大きくなっています。今「教え子を再び戦場に送るな」の誓いのもと、教職員組合としての役割が大きく問われています。

教育の場においても安倍政権は、道徳の「特定教科」化、教科書の記述への介入、そして教育委員会の制度を変え、首長の権限を強めるなど教育への支配を露骨にすすめています。そして戦争の反省の上に立つ教育を全て解体し、改悪された教育基本法路線を進もうとしています。教育は特定の価値を押しつけるものではなく、中立性を保ち民主的な活動のもとで人格の完成をめざして行われるものです。その役割を何としても守らなければなりません。

安倍政権下で悉皆（しっかい）調査が復活した全国学力テストは、学校側の成績公表へと進もうとし「競争と管理」の教育は、経済的格差の上にさらなる格差をもたらしています。また、私たち教職員も長時間過密労働と管理統制が続いています。そしてこのことが、子どもの成長と発達を妨げています。

苦しい状況の中でも、子どもたちは未来を創り出すことができる素晴らしい存在です。今、子どもを中心にすえた学校づくり・学級づくりが求められています。

安倍政権の暴走にストップをかけ、広く国民との共同の力を強め、子ども、保護者、そして教職員の願いを重ね、民主教育を推進しましょう。

以上 決議します。

2014年2月22日

香川県教職員組合 第90回定期大会